

付 属 表

付 属 表

	頁
付 1 (職員の担当業務別) 何が起きたと思ったか……………	197
付 2 (現訓練生(居場所が東北被災三県以外の地域)) 年齢別・何が起きたと思ったか……	197
付 3 (訓練生) 受講職種と就職職種の関係への影響と就職納得度……………	198
付 4 職業訓練を主とした事業運営について大震災後にみられる変化……………	199
付 5 訓練科・コース運営における大震災の影響……………	201
付 6 (職員) 被災対応の中で残された課題、その理由と提起できる解決方策……………	203
付 7 (職員) 大震災体験を踏まえて望む事前の備え……………	205
付 8 (職員) 大震災から後の経過について、今後に伝えておく方がよいこと……………	207
付 9 (職員) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと……………	208
付 10 (訓練生) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと……………	210
付 11 (現訓練生) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと……………	212
付 12 (訓練生) 求職活動の結果についてデンドログラム……………	214

付1 (職員の担当業務別) 何が起きたと思ったか

単位 = 人、() = %

		何が起きたと思ったか							計	
		地震だ	またか	大きな地震だ	ついに宮城沖だ	今までにない巨大地震	動揺、終末、異常な恐怖等	その他		無回答
総務・事務系	多賀城の施設				4					4
	仙台事務所	1	1	2	1			1		6
	宮城センター業務関係場所				1					1
	自宅	1		1	2				1	5
	計	2(12.5)	1(6.3)	3(18.8)	8(50.0)	-	-	1(6.3)	1(6.3)	16(100.0)
職業訓練系	多賀城の施設	4	2	5	2	5	1			19
	仙台事務所	1								1
	宮城センター業務関係移動中							1		1
	自宅				2					2
	その他			3						3
計	5(19.2)	2(7.7)	8(30.8)	4(15.4)	5(19.2)	1(3.8)	1(3.8)	-	26(100.0)	
訓練支援系	多賀城の施設	1			2	3				6
	仙台事務所					1				1
	宮城センター業務関係移動中	1		1						2
	自宅			1			1			2
	その他				1					1
計	2(16.7)	-	2(16.7)	3(25.0)	4(33.3)	1(8.3)	-	-	12(100.0)	
全体	多賀城の施設	5	2	5	8	8	1	0		29
	仙台事務所	2	1	2	1	1	0	1		8
	宮城センター業務関係場所				1					1
	宮城センター業務関係移動中	1		1				1		3
	自宅	1		2	4		1			8
	その他			3	1					4
計	9(16.7)	3(5.6)	13(24.1)	15(27.8)	9(16.7)	2(3.7)	2(3.7)	1(1.9)	54(100.0)	

付2 (現訓練生(居場所が東北被災三県以外の地域)) 年齢層別・何が起きたと思ったか

単位 = 人、() 内 = %

	何が起きたと思ったか							計
	地震だ	またか	大きな地震だ	ついに宮城沖だ	今までにない巨大地震	動揺、この世の終末、異常な恐怖	その他	
30才未満	4(66.7)	1(16.7)	1(16.7)					6(100.0)
30~34才	3(75.0)						1(25.0)	4(100.0)
35~39才			3(75.0)				1(25.0)	4(100.0)
40~44才							1(100.0)	1(100.0)
45~49才	1(33.3)			1(33.3)		1(33.3)		3(100.0)
50~54才	1(50.0)		1(50.0)					2(100.0)
60才以上			1(50.0)		1(50.0)			2(100.0)
計	9(26.5)	1(2.9)	6(17.6)	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	3(8.8)	22(100.0)

付3 (訓練生) 受講職種と就職職種の関係への影響と就職納得度

単位 = 人

		職種一致度					計	
		希望した が変更	こだわら ず	どこかに 役立つ	一致	その他		無回答
30才未満	納得	1	2		2		2	7
	不満							
	その他							
	無回答							
30～34才	納得	1	2	1	2			6
	不満		1				2	3
	その他	1						1
	無回答							
35～39才	納得					1	1	2
	不満		2				1	3
	その他							
	無回答						3	3
40～44才	納得	2			1	1		4
	不満	1	1			2		4
	その他							
	無回答							
45～49才	納得							
	不満				1	2		3
	その他							
	無回答							
50～54才	納得	2						2
	不満							
	その他							
	無回答					1		1
55～59才	納得							
	不満	2					1	3
	その他							
	無回答						1	1
60才以上	納得	1		1	1			3
	不満							
	その他					1		1
	無回答						1	1
計		11	8	2	7	8	12	48

付4 職業訓練を主とした事業運営について大震災後にみられる変化

<p><全般について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる面で状況は変わった
<p><訓練指導環境について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属加工において、環境の変化は何よりも大きいと思う。今までできたことができなくなるため、訓練生に教える内容もそれなりに減少。また教材データ、ジグもないため、一部教えることができなかった部分もある ・仙台・名取実習場への移設したことの周知度がまだ足りない ・機器等設備がほとんど使えなくなり、セミナー開催、離職者訓練の実施で苦労した ・私は事業所ネットワーク技術サービス科の担当を務めており、同科のコンピュータ関連の訓練を担当することが増えたため、電気関連分野における技術的な自己研鑽の計画に大幅な変化が生じた。現在のところ名取実習場の応募数が多賀城の時に比べ減少している傾向があるため、震災前以上に広報の重要性が増したように思う ・以前の訓練実施状況を知る指導員が転勤したりしたため手探りでの訓練になっている <p>(このほか、生活基盤の状況から仕事をする上での苦労についての質問で次の関連回答あり)</p> <p>「震災復旧は全て遅れている状態で、職場の業務の以前の状態への復旧も同様に、数年はかかるものと思っている」</p>
<p><入所動向></p> <p>入所率や就職率について雇用環境の激変に伴う影響は大きいと思う。震災後の離職者の行動心理は、リーマンショック等過去の経済要因とは明らかに違っていたし、復興支援の遅れがあったものの、過去の公共事業型であり、入所率、就職率は大きな変動はなかったが、内容的にはかなり違ったものであった。習熟度は大きな影響を受けなかったと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災後は当面の生活を維持する為に訓練を受講する訓練生が増えた ・入所率がとても低くなったと思う。セミナーは多くなった。(無料のため) ・震災直後と比べると今は希望する人は増えていると思う ・入所率は悪化している。しかし、入所率が悪化していることを、環境の変化によるものだ等の責任をかわすような言い方をせず、地道に業務を遂行する人材育成や組織風土を作っていくたい ・就職のため県外へ出てしまったものと思われるが、入所率が低くなったと思われる ・震災復興に関連して、建築関係や電気工事関係コースへの応募が増えている ・施設の場所が変わったことにより応募者数が定員を割っている ・雇用保険の給付延長により入所率の低下が見て取れる。 ・多賀城から名取に移ったため応募率が下がった影響はあると思う
<p><就職動向、受講意識></p> <p>就職についても訓練終了後給付期間は就職しないなど弊害が出ている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に中高年齢層と若年層の就職状況の悪化 ・以前と同じ科があるわけではないので、応募してきた訓練生の質を比較することは難しいが、少なくともやる気を持っている人は少ないように感じる。訓練時間と休みの時間を計算し、休む人が多い。受講している訓練の内容と就職先との関連をあまり考えていない、雇用保険や給付金をとりあえずもらってからゆっくり就職しようとしている人が多いように思える ・生活基盤を早期に確保するため、就職意欲が高く就職率は高まった

<訓練生の生活基盤、支援環境>

- ・震災後は当面の生活を維持する為に訓練を受講する訓練生が増え、また、地元企業に就職を希望する訓練生に対する震災後地元企業の求人の劇的な減少により、訓練生の生活基盤の構築の難しさを実感
- ・震災以前は職業訓練を選ぶ余裕があったと思う。震災以後は仮設住宅の住居の方が訓練をして技能を持ち、職に就きたいと思う人が多かった
- ・場所が変わったためか、県南に住んでいる方が増えたように思う。石巻・気仙沼方面の方が通所するには仙台・名取は不便だと思います

<委託訓練等での企業や地域との関係>

- ・委託訓練に関しては、移管時期が決まっていたので、特に変化はなかった

<その他>

- ・(変化は)あると思う
- ・24年4月から異動したので(その後のことは)わからない
- ・(訓練担当でなので)詳細は承知していない
- ・訓練担当でないためわかりません
- ・分らない
- ・特になし
- ・震災前の状況を承知していないため、記載できない
- ・(当時、他施設に在籍していたため)特になし
- ・(震災後に転入したため)該当しない
- ・(当時)本部のため該当しない

付5 訓練科・コース運営における大震災の影響

(訓練指導環境について)

訓練の実施については、仮設実習場のため、様々な問題はあるものの、受講生の理解を得ながら順調に推移している

<訓練科・コースにおける変化>

- ・23年度中の開始コースについては、ほぼ定員の確保ができたが、24年度に入ってから開始コースで一部定員割れが発生している。応募者の減少については、緊急雇用対策等による求職者数の減が大きな要因と思われるが、ハローワークとの連携強化による受講生確保がより重要になる
- ・建築CADの応募者は多く、また1期生の就職率も8割を超えた
- ・職業訓練はCADが人気だった
- ・以前よりは、技術を身につけたいという人は多くなっていると思われます
- ・ものづくりコースへの応募は厳しいが、徐々に応募者が増加している
- ・離職者訓練については、震災前は定員をはるかに超える訓練科が多かったが、今年度は定員割れがある訓練科が特に名取実習場の設置化に見られる
- ・現在復興バブルのようで仕事がそこそこあるらしく、受講応募者が定員に満たない
- ・主に担当している訓練コースは、開設当初は応募多数だったが、その後芳しくない。訓練ニーズ、就職状況を踏まえ、見直しが必要と思う。見直しに当たっては、他科との関係もあり、全体での見直しが必要
- ・事業所ネットワーク技術サービス科の応募状況は定員をやや超える程度である。女性の応募があれば定員を超えるが、少ないと定員を割ることもある
- ・事業所ネットワーク技術サービス科 平成23年6月生は募集定員を超える応募があり、入所率は100%、就職率は修了後3ヶ月で83%、4ヶ月で90%。今後は平成23年6月生と平成24年1月生の訓練生のアンケート調査と企業へのニーズ調査のデータを元にカリキュラムを検討する予定
- ・想定していたより、応募状況その他は、低いが、今後、少しずつ上向きになるものと思う
- ・応募状況は予想より少ないが、就職状況は良い。本格的な復興事業が始まるので応募は増加すると思う
- ・「建築CAD技術サービス科」の応募に関しては非常に好評で、また就職率も8割を超えている。やはり仙台駅近くという立地条件と女性に人気のあるサービス系というコース設定だと思う。今後もこの傾向は続くと考えられる
- ・CAD・NC加工技術科、溶接施工科については当初訓練受講生確保に苦慮したものの、製造業の生産高の増加、求人増加等復興の兆しが強くなる中、受講生数も増加の傾向にあるのではないかと
- ・(担当コースの)応募率は5~7割程度。新科立ち上げのため訓練実施は手探りな部分もある

<就職実績、受講意識の変化>

- ・就職率は23年度確定で81.7%と聞いているが、良好と言える状況である
- ・就職状況は以前より少し良くなりつつあります
- ・就職率は全体で80%以上達成している
- ・震災直後の訓練生は遅刻・早退・欠席数が非常に多かった。現在も多賀城で訓練を実施していた時より多いように感じる。就職先の条件を下げれば就職はできるが、こだわっている人はなかなか決まらない。特に、情報産業については経験のない訓練生が希望した場合、ほぼ100%決まらない。そのことについて理解させることが難しいし、震災復興に関連する仕事に就きたいと考える人はいない
- ・電気工事士の仕事の募集が多々あり、就職状況は概ね良好ですが、年齢によっては就職で苦労されている方や、また就職しても離職する方も居り、よりいっそうのフォローアップ体制が大事だと考えています
- ・平成23年度就職率は81%を超えており、一定の評価を頂けるものと認識している

<ul style="list-style-type: none"> ・就職率は2割強くらい、地域からの要望等により、訓練内容の検討が必要
<p><企業や地域との関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧後の地域経済の低迷による求人企業等の減少 ・就職についても企業の開拓が少しずつ進んでいる
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災前後に終了したコースは、会社が被災して退職した等の状況が出ていたが、委託訓練の修了者とは、避難場所が把握できずに連絡が取れなかった事もあった ・(大震災後に転出したが、転勤先も被災県にあり)震災後の5、6、7月は応募状況が良かったが、それ以降は急に悪くなった。原因は震災による延長給付ではないかと思います ・平成25年度に向けて、生産設備メンテナンス科などの科の見直し、一部訓練科のカリキュラム見直しを行う予定としている ・転勤したので回答できない ・訓練課の回答にお任せする ・(担当が異なるため)詳細を承知していない ・(担当が異なるため)わからない ・特にない ・(当時、他施設に在籍していたため)特になし ・(震災後に転入したため)該当しない ・(当時)本部のため該当しない

付6 (職員) 被災対応の中で残された課題、その理由と提起できる解決方策

<p>・被災対応の中で残さざるを得なかったこと、 どうしても解決できなかったこと</p>	<p>解決できなかった理由や解決に必要なだったこと、 もし、それがあれば解決できたこと</p>
<p>訓練を中止せざるを得なかったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設が水没し、壊滅状況になったため ・今回の規模の津波では、現地での対策は不可能で、津波影響を受けない場所へ移転しておけばよかったとしか言いようがない
<ul style="list-style-type: none"> ・デュアル訓練の再開と当該カリキュラムに協力する地元企業の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは地元企業の経済基盤が強固となることで企業の体力が回復し、訓練生の企業実習を受け入れられる余裕が生まれるようになるものとする
<ul style="list-style-type: none"> ・当時、部外講師で来られていた先生に対する対応や補償が気になりました 	<ul style="list-style-type: none"> ・車が流された講師の方、1年間の予定で計画していた講師の方に対しての説明が不十分だったと直接お聞きしました(部外講師から)
<ul style="list-style-type: none"> ・震災で訓練を途中で受講できなくなった方々が「就職を探してください」と言われて、困惑した話を聞きました。大変な事態、大震災だったので仕方がないのですが、何か別の方法がなかったのかと思います 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練場所が津波で大きな被害を受けたためで受講はできなくなりましたが、続けて受けられるシステムが確立されれば、また今後検討の余地はあるかと思いました
<ul style="list-style-type: none"> ・3月の訓練修了間近の震災のためその後の訓練生への対応上の問題 ・機材等をもっと早い時期に復旧の方向で対処したかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月の訓練修了間近の震災のためその後の訓練生への対応、前年度の業務の後始末など実施する為、4月の人事異動は凍結し少なくとも3ヶ月は前体制で運用するべきであった ・機材については、人力では不可能なので機械を使っただけの復旧が必要であったが、生活インフラの復旧等が優先されることや早期の訓練再開が使命となったため手つかずのままとなった
<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも管理者は最低1名職場に残ること。人的被害はなかったので大きな問題とはならなかったが、仮に被害が出ていたら責任を追及されていたものと思う ・津波は天災かもしれないが、原発事故は人災である。想定していなかった津波の規模だったというのは、責任逃れでしかない。私の生まれ故郷の大半は何の罪もない住民が避難生活を余儀なくされ、現在も帰る見込みのない状況となっている ・人生全てを失い、過去の記録や記憶、祖先の墓まで守れなくなった状況で今後、生きる望みをどこに見出すのか。自分のこの記録を誰が見て何を解決してくれるのだろうか。幸い、自分の家族と自分は無事であったが、結局は自分の身は自分で守るということだろうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後そういったことがないよう現在は対応しているが、そのことについて今も暗に追及されている
<ul style="list-style-type: none"> ・震災時の電話等の通信手段を確立すること ・太陽光発電等による電力の確保 ・移動手段等の整備(駐車場の開放) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話等をつながりやすくするためのインフラ整備 ・蓄電等機器の開発に集中投資 ・移動手段の整備
<ul style="list-style-type: none"> ・錆びた訓練用具を使用した訓練 ・多賀城施設がまだ、復帰されなくて、仙台、名取の変則的訓練実施により、非効率的な面が目立ちます 	<ul style="list-style-type: none"> ・多賀城の復興が遅れているため

<p>・被災対応の中で残さざるを得なかったこと、 どうしても解決できなかったこと</p>	<p>解決できなかった理由や解決に必要なだったこと、 もし、それがあれば解決できたこと</p>
<p>・宮城県に近いうちに大きな地震が来ると予想されていたにもかかわらず、リスクマネジメントシステムが言葉や掛け声だけで終わっていたことを痛感した</p>	<p>・このような甚大な災害に遭遇した施設でありながら、ただの一度も災害についての記録整理やヒアリングあるいは会議が行なわれておらず、このアンケートで初めて私自身が経験したことや実践したこと、問題点などを述べる機会が得られた</p>
<p>・偶然、たまたまだったのだろうが、震災時点での管理職が敷地内に誰一人いないという状況で、指揮命令システムが全く機能していなかったこと(ただし、300名もの受講生・職員に誰一人けが人も出さず無事を確保したことは、職員間の協力と連携と機転の賜物であり、奇跡を起こした素晴らしい行為だと思っている</p>	<p>・震災後、何度も記録整理すべきであると管理職へも具申ししていたが、私自身の説得力の弱さや力不足のせいだとは感じるが、施設側から現在の仮設施設が存在する場所における「震災マニュアル」が示されただけに留まり、震災記録の整理には応じてもらえなかった</p>
<p>・避難訓練も、ただ実習場や教室から集合場所へ移動するだけのセレモニーになっていて、様々な状況や場面が想定された実際のなものではなかったということ</p>	<p>・機構が廃止・吸収というタイミングだったからなのか、そもそも機構や施設の体質がそういうものなのか、誰一人けが人も出なかったからなのか、いずれにしても、多くの命を預かっている施設としてもっと真摯な姿勢と取り組みが必要ではないだろうか、と感じている</p>
<p>・このような様々な方面から大勢の受講生が集まる施設・施設従事者として用意しておくべき緊急用品、情報連絡システムなどの準備体制が全く不備だったこと</p>	<p>・情報が正しく入手できなかったことと、決断する人がいなかった、決断するシステムが機能しなかったためと思います</p>
<p>・震災当日、訓練生を8号棟2Fに避難させ、一人の犠牲者を出すこともなく、不幸中の幸いであり、本当によかったと思います。しかし今思えば、10mの大津波の警報が出て、到達予想時間の情報が正しく入手できていたならば、施設内に留まるべきではなく、市役所や福祉センターの方へ全員で避難するべきであったと思います。その決断ができなかったのは残念です</p>	<p>・相談を受ける際に話題に出ることが多いのですが、金銭的な事柄については組織としての対応が非常に難しい分野であるため、役所等の関連機関の紹介に止めざるを得ません</p>
<p>・職業訓練や就職に関する相談は可能な限り対処しましたが、訓練生のご家族を含めた被災による経済的な損失に関して相談を受けた際に解決できないことです</p>	<p>・有事の際にどのように行動するかを意識徹底</p>
<p>震災の際に、津波が来るため、敷地内の建物の2階に避難するよう訓練生に呼び掛けたが、避難したために津波で車を失った方が多々おり、一部の訓練生の方はそれに対して補償がないことを不満に思っていたようです</p>	<p>・孤立した場合の指揮命令体制と情報伝達</p>
<p>・訓練生を全員施設内に引き止めることができなかった</p> <p>・高価な機器等は極力1階には置かない、すべての階にはトイレを設置するということを実感した。また受変電設備は屋上に設置するなどの基本設計が不足していた</p>	<p>・高価な機器等は極力1階には置かない、すべての階にはトイレを設置するということを実感した。また受変電設備は屋上に設置するなどの基本設計が不足していた</p>
<p>・転勤の時期がずれたため家賃が二重に発生したが、何の対応も回答もなかった</p>	<p>・同左(=イレギュラーなケースなので体制や規定等の整備は難しいと思います。しかし状況は報告していたので何らかの対応・回答あれば次の手を打てた)</p>
<p>・(質問に対して関連内容が回答されたもの) とにかく冷静な対応、安全確保、教職員同士の連携です</p>	<p>・職員、訓練生らも約200人で一晩、暗い中で過ごしました。あの時は職員同士話し合っ、今、なにをすべきかを話し合っていました</p>
<p>「特になし」が5人、震災時に不在や質問の意味が分からないというコメントが合わせて3人</p>	

付7 (職員) 大震災体験を踏まえて望む事前の備え

<施設・設備の設計に関すること>

- ・自然災害には無力なので、建物の耐震化や高台移転・道路の高架等が有効と思います
- ・地域住民等を含めて利用可能な避難場所機能(避難ビル機能)・電気設備の屋上設置、太陽光発電設備及び蓄電設備の設置等
- ・多賀城ポリテクでの津波対策に関して、避難ビルの建設、屋上受水槽型の給水設備(緊急時の飲料水確保)・高層階に自家発電設備の設置と緊急避難用食料、毛布、水の備蓄、キュービクルも水没しない位置に設置したほうが良い。(早期の受電が可能)
- ・津波到達の高さを十分に配慮して書類保存場所を確保する。施設ごとのホストサーバーは地震対策と共に津波対策として2階以上に設置する
- ・発電機の備えが有効と思われる
- ・避難場所の整備、避難所としての機能する為の設備
- ・震災よりも津波による被害が大きいため、住居・勤務先の地理的条件を整えておくこと
- ・津波浸水に備えた避難建物及び通信機材機器等の設置

<防災用品・食料等の常備に関すること>

- ・保存食、毛布等の備えが必要だと思います
- ・非常食、水、簡易トイレ、毛布等の備蓄が必要
- ・各実習場に防災グッズ(食品、懐中電灯)などを整備する
- ・食料や毛布
- ・食料等の備蓄
- ・水・食料等の備蓄品、携帯ラジオ等の備蓄品
- ・非常時における備蓄物を保管する
- ・ラジオや非常食等を常備する
- ・地震を想定した十分な備蓄
- ・食料はもちろんのこと、震災が寒い時期に発生したことから、普段から燃料(灯油、重油)、発電機の備えが有効と思われる
- ・どんな準備をしてもこれでいいということはなく最低限、水、携帯ガスコンロ(ボンベ)、大きめの懐中電灯等、食料品の備蓄が必要と思われます
- ・一週間分ぐらいの食料の備蓄と風呂水は流さないでおくこと水洗に使えます
- ・食糧の確保が困難であったため、保存食を蓄えておくことが重要だと思います
- ・水・食べ物の備蓄
- ・津波浸水に備えた防災備蓄用品
- ・当たり前であるが、日頃からの食糧・水・簡易トイレ・ラジオ・拡声器等の非常時に必要なものは整備しておく
- ・食料・寝袋・毛布など緊急時に必要な備品、消耗品の備蓄
- ・震災後需要が出てきたいわゆる防災グッズ等の備蓄

<避難訓練や防災教育に関すること>

- ・緊急連絡網を活用した訓練の実施
- ・災害時の避難場をあらかじめ決めておく。ex、3、8号館とか、3ヶ所に別れ、その館ごとの対応が違ったり、連絡が取れなかった
- ・震災前の避難訓練で津波を想定した訓練があれば良かったと思います

- ・大きな災害が起きたときの対処法はもちろん、各センターの周辺環境や、避難場所、訓練生や職員への対応は考えられるだけ、考えたほうが良い
- ・災害発生に対するマニュアルをきちんと整備し、職員全員に周知を徹底する
- ・津波が来たときの避難方法
- ・地震、津波などの自然災害等に対する防災(災害)訓練を実施し危機意識を喚起する
- ・非常時にも冷静かつ適切な対応ができる職員を育成する
- ・地震を想定した避難訓練
- ・想定外を想定し、避難訓練等を常にしっかり行なうことが重要だと思います
- ・津波に対する認識を改め、有事の際にはどのように行動すべきかを常日頃から徹底することが大事だと思います
- ・避難訓練等の徹底
- ・避難場所等の把握

<緊急時の情報確保、連絡体制に関すること>

- ・会社からの指示等情報が、正確かつ確実に伝達する体制の確保
- ・連絡手段、震災時の情報取得
- ・震災時の情報収集方法等の整備、確保
- ・このような災害等での施設の機能が失われた時に、即座に本部が遠隔でも代行する機能を備えていること。災害が発生した現地では、情報を得ることも、物資を調達することもかなわない状況になっているので、連絡中枢を担う職員を派遣してもらい、本部と密接な情報交換を取り合える体制をとること
- ・情報収集システム、意思決定システム、非常時の対応・行動システムをきちんと整備しておくことが必要だと思います
- ・指揮系統の確立
- ・このような事態におけるマニュアルを整備しておくこと
- ・指示系統の確認、・避難訓練等の徹底

<復旧・復興対策に関すること>

- ・今回のような県内全て被災地であった場合は、現所在地に最も近い場所に施設の確保が急務。そのための情報提供は必須
- ・職業訓練は本当に皆さんに喜ばれていて、今回は震災で訓練が途中になってしまった人達もおりますが、今後は時間をあけても続けて訓練が受けられるようにそういう環境を作ると良いかもしれません

<その他>

- ・特に備えはいりません。冷静な判断力があれば、それだけで十分です
- ・自分だけ分かっている業務、書類は少なくし、誰でも分かるようにすべきと考えます
- ・これだけの大きな災害は事前に想定などできないし準備も不可能である。ただ頭の中でどのように対処したらいいかシミュレートしておくことは重要である
- ・どのような状況でも冷静・迅速に対応しブレることのない判断力、メンタル面での強化と災害・重大事故が発生した場合は、1人の判断ミスが生死を分けることを認識しておくこと
- ・職場・生活等の地域環境の把握
- ・震災は規模、月日、時間等がわからないので、備えをしてもあまり問題解決にはならないと思う
- ・事前準備が全然できていない状況でいたが、ポリテクセンターで大きく3ヶ所の場所で訓練生、職員が避難しました。そのなかで状況に応じた判断ができ無事に怪我なく避難できたと思います
- ・通常時に於ける管理職の勤務の在り方。(当日、管理職が不在で、判断・指示できる者が、不在であった由)
- ・他施設に在籍していたため特になし

付 8 (職員) 大震災から後の経過について、今後伝えておく方がよいこと

- ・施設が火事となることを想定した避難訓練は実施していたが、火事以外の避難訓練も計画し、災害状況に応じた避難誘導ができるよう知識と経験の付与が必要
- ・震災後すぐの転勤だったため、心残りがありましたが、同じ被災地の福島で働けた事が自分としてはやりがいを感じています。又、当時施設で対応した安全第一での避難誘導がなければ、どのくらい被害が出たかわかりません。今でもゾッとします
- ・何日か避難所に指定されているので、食料品の備蓄を要望していたが、実現しなかった。避難所らしき設備、備品、食料品がほしい
- ・起こりえる最悪の状況を想定して、準備すること
- ・「備えあれば憂いなし」
- ・多賀城施設の復旧が遅すぎる。周辺の企業は震災後半年も経てば復旧作業を始め、今は以前のように多くの企業が仕事を始めている。震災復旧訓練に力を入れるのであれば、被災した施設を復旧することも同時に行なうべきである。また、被災した方の交通手段を考え、通える場所に仮設実習場を設置するべきであったと思う
- ・震災後できるだけ早く今回のような調査を行なうべきであったと思う。時間が経過すれば、それだけ記憶が薄れてくる。また、せっかく忘れかけた震災時のことを思い出すことで不快な気持ちになる
- ・被災して生活できなくなった職員に復旧のための作業を任せるだけでなく、他施設からの応援があっても良かったと思う
- ・一時的に他の施設を間借りするなど復旧の為の準備をするべきであったと思う
- ・宮城職業訓練支援センターの今後の方向性を決めていただきたい
- ・実習場の整備後、すぐに開校となったため、訓練で使用する教材やジグ等の準備が追いつかなかった(設備がないので)
- ・被災地にいる指導員をわざわざ被災地でないセンターに派遣させたことが疑問。企業とのつながりを修復する時間、準備時間を大幅に失くした。声に応えることができなかった
- ・訓練期間が3~4ヶ月、6ヶ月とあります。それ以外に短時間で習得できる訓練があると良いと思いました。以前のことで、奈良のジョブカフェで「連続10日間パソコンコース」とか「2ヶ月限定」の訓練があり、非常に良いと感じたことがあります
- ・今よりも数コース、コースの内容(パソコン、CAD等)がふえることを希望します
- ・一所懸命、命を懸けるとはこういうことだ。と言い切れるだけのエネルギーと推進力で業務を遂行したい
- ・多賀城地域工場地帯連絡協議会(多工連)、宮城県溶接組合、みやぎ工業会、宮城県機械金属工業会の各業界団体から、多賀城施設の早期復旧の要望書が、国及び当機構あて提出されている
- ・地震直後、訓練生から家族が心配だから帰してくれという声も少なからずありました。その声に向どう対処すべきか悩みました。それを引き止める権利が我々にあるだろうか

「特になし」の趣旨の回答が6人

付9 (職員) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと

- ・「災害は忘れたころにやってくる」ことを肝に命ずること・普段から、地域の方々と良好な関係を築くこと・緊急時の家族や会社に、自分から状態を連絡すること。また、家族との集合場所を決めておくこと
- ・震災の程度の大小に関わらず、訓練生を守ることが最大のサービスであることを認識しておいた方がよいこと
- ・宮城県沖地震が起こるといわれているが、その対策が出来ていない。特に津波対策(新しい建物を作っても2階では不十分であり、まして避難所に指定されているのなら、それなりの設備がほしい
- ・女性の方でも技術を身につけるコースがふえることを希望します
- ・最終的には自分の身は自分で守る
- ・平日頃から災害等に対して高い意識を持ち、その場の状況に応じた瞬時の対応能力が必要であることを痛感した
- ・非常時における管理職不在時の危機管理体制のあり方。(管理職不在の中での被災から)
- ・私事ですが、宮城県沖の大地震が予想されるとのことでしたので、タンス等の倒れやすいものは耐震補強をしていた。(地震保険も大切です。)自宅から火を出さないこと。いどこで災害にあうかわからない「震災大国日本」に住んでいることを自覚すること・震災直後は塩竈市(新清水沢宿舎)への譲渡協議も御破算かと思われたが、平成24年3月末日に無事譲渡できました。大震災後も仕事ももてたことを感謝しております。今日まで元気で過ごせたことに感謝申し上げます
- ・当日の連絡方法は携帯電話だけとなり使用するも通じ難く、結果として何回も掛け直しをしたために、早くバッテリーが消耗し夜には全員の携帯電話が使えなくなりました。つきましては、備蓄品として乾電池で使えるアダプターや充電器の備えが必要と感じた
- ・原子力発電は、何時どのような事故が起きるかわからないので、原発は廃炉にして、自分の使うエネルギーは、できるだけ自分で作る等の思考の改革が必要と思います
- ・緊急事態発生時の行動規範(詳細な)作成、周知、徹底、及び定期的に訓練実施要・全てのライフラインが寸断されるので必要最低限の備え要。場所にもよるが館腰等には発電機・無線機等の常備
- ・「大丈夫だろう」という考えは、持たないほうがよいと思いました。(過信すべからず)
- ・当日はたまたま運営協議会で管理者が誰もいなかったことが意思決定できなかったことの要因です。そのような状況を作らないことが重要なのではないかと思います。震災後しばらくの間は被災者や失業者が溢れ、ハローワークには長蛇の列ができる状況でした。そのような状況の中で私たちはその支援が満足にできたのだろうかという疑問もあります。組織や制度の枠に縛られ、なかなか思うような行動が取れないもどかしさも大きく感じました
- ・本部などから施設はあっても実際に震災を体験した職員から震災時の状況を聞き取る調査がなかった。震災時の管理職がいないにもかかわらず、一般職員だけで訓練生を無事避難させ、一人のけが人も出さなかったことは、その時の状況と共にどのように対応したか後進に伝えるべきであると思う
- ・震災復旧訓練の立ち上げばかり急がれ、被災した方のための訓練になっていない。訓練生として受講している人の多くは、震災の被害を直接受けていない人が多い。また、震災復興をしていくためには必要な訓練科が設置されていない。現状の機器と人員でできることを早急にやるのが本当に正しかったのか疑問である
- ・震災が起きた時は、高い安全なところにすぐ逃げるのが大切だと思います。2階の建物に避難して、津波が来て水が2階近くまで来た時は、水が建物の屋上まで来るのではないかと恐怖でいっぱいでした。幸いに2階まで来ませんでしたので助かりましたが、陸前高田、女川のような津波がきたら多賀城一帯で多くの死傷が発生したと思います
- ・被災により施設が壊滅的被害を受けた場合、早期訓練開始のためには仮設実習場、訓練用機器等の確保が不可欠である。仙台、名取、遠野、八戸、日立の仮設実習場確保のノウハウを記録として体系的に整理し、今後のマニュアルとして保存しておくべきと考えます。多賀城を閉鎖し、仙台及び名取実習場で、平成23年度は震災前の概ね5割程度、平成24年度は概ね8割程度の訓練規模を想定したところ。訓練復旧までの間、指導員の他施設への応援態勢の検討、実施をしたが、何よりも仮設実習場における訓練実施を円滑に進めるためには、「多賀城は閉鎖するものの、仙台及び名取に仮設実習場を確保し、いつから、どれだけの規模の訓練を実施する。被災事業主及び団体にもどのような支援ができる等」の広報を、ハローワーク、市等の広報誌、事業主及び事業団体への訪問などを通じて、しっかり広報PRする体制の確保が必要と実感している。被災地の宮城県内において、当機構が離職者等の求職者、事業主及び事業団体に何をやるのかをしっかりと知らせる態勢の構築が、当機構の存在感を高めることになると実感している

- ・震災当日は勤務日でなかった為、また3月で辞めたのでアンケートは答えられるところのみ記入しました。あまり役に立たないかもしれませんが、送付します。震災後、しばらく通勤できず、また仕事が中途半端な状況で退職し、申し訳なく思っています
- ・震災を経験し、苦しい事や悲しい事もたくさんありましたが、共に乗り越えた職員の皆様と強い絆ができました。毎日を生きる事に一生懸命になれた貴重な経験と思い、これからの生活に活かしていきたいと思えます
- ・震災で一番苦しかったのは、目で見た恐怖がもう一度襲ってくるのではということ
- ・また疲れきっている中での、泥かきやセミナー等対応への不安感。これだけのスケールメリットがあるのだから、普通は被災地へ向けて、展開しなければいけないのではないのでしょうか。震災復興訓練や派遣において、その辺りの発想がおかしいと思いました。泥かきもままならない時に、派遣の話は少し驚きました。あのとき、現場にいた職員が求めていたものは生活を取り戻す事と、体力的に厳しい泥かきの応援だったと思います。このプロジェクトについて、立ち上げる時期が遅すぎるのではないかと思います。このまま風化するのではと思っていました
- ・震災直後からずっと心に気になっていたのは、会社に対して自分が何も出来なかったことです。多賀城の施設への助力もただ話を聞くばかりで本当に無力で申し訳ないと思っておりました。機構に入ってとても皆さんによく指導していただき、お世話になってばかりで申し訳ありませんでした。そして本当にありがとうございました
- ・普段全くお付き合いのない方々との声掛け、あいさつ等が震災時のつらい日々になごみをもたらしたと思う
- ・いつの世もいつの間にか忘れ去られ同じことが繰り返されてしまうのも、残念ながら現実である。当センターにおいては人的被害がなかったため、大きな責任問題とはならなかったが、肉親や同僚、生徒をなくされた職場等においては、現在も自責の念に駆られている方が多いことと思う。後世に語り継ぎ風化させないことが、自分達の役割であり、そのことが今後の教訓となり安全確保につながるものと考え
- ・震災時に受講生、職員及び近隣住民含め、300名以上の方々が本館及び実習棟に避難し、一人も犠牲者を出さなかったのは、津波が1階のみで終わったということもあったが、係長はじめ先生方の的確で冷静な判断と行動があったからである。受講生や近隣住民に、被災当日から翌日昼まで、本館及び実習棟で、係長及び先生方の献身的な支援、勇気づけにより、震災時のパニックもなく、全員が冷静に対処できたということは特筆すべきことです
- ・「人間はいざというときにその価値が分かる」ということわざがありますが、まさしくこのことわざどおり、今回の大震災時における冷静で的確な判断と行動ができたポリテクセンター宮城の職員及び先生方に絶大なる称賛を贈りたいとおもいます
- ・私一人が震災時に、見たり、聞いただけでも、震災直後にハンドマイクを片手に校内を走り回り、避難を呼びかけた受講生係長、今すぐに帰してくれという受講生に、冷静な行動をとるように説得し続けた先生方、具合が悪くなった受講生、近隣住民を献身的に看護した先生、家族の安否が一番心配なのにも関わらず、本部、管理職及び関係機関と私用の携帯電話で連絡を取り続けた経理係長、救出した職員のために、タオルや着替えや作業服を用意した総務課嘱託職員、受講生が全員無事の避難を確認してから、最後に避難した先生方、ほんの一部ではありますが、どの行動も人間としてすばらしいものです。
 - ・震災後に理事長より、一人も犠牲者を出さなかった我々職員に、ねぎらいと感謝の言葉をいただき大変ありがとうございました。少し時期を逸したかもしれませんが、「職員の模範として推奨するに値する業績または善行のあった」職員(係長、先生方)を広く機構内に伝えていただき、表彰していただければと願っています

「特になし」の趣旨の回答が4人

付 10 (訓練生) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと

- ・訓練施設は、災害などがあつたときに少しでも被害を受けない場所に作ってもらいたいと思う。離職し、再就職を目指して訓練を受けるので災害等で途中で技能不足のまま中止になってしまうと、より再就職が困難になってしまうので考えてもらいたい
- ・私は生産マネジメントに入って参考になったが、レベル的に不満の方もいました・企業とタイアップして、実践をもっと取り入れては、と思います
- ・企業実習先の方にはとてもお世話になり、就職も話されましたが、二種電気工事士の取得もまだでしたので大変申し訳ないことをしてしまいました。※資格の方は取得しました(H23.10)
- ・震災後の状況からしても難しかったとは思いますが、説明会や相談、面談などがあればよかったと思います
- ・途中終了となりましたので、終了証にかわる何かをいただけたらありがたいと思っていました。(何を学んだかこの訓練校での習得したものを第三者の方に説明しやすくなると思います)・短く、途中で終了となりましたが、先生方には大変お世話になりました。本当にありがとうございました
- ・地震直後に来るまで帰宅することもできたが、道路はすぐに渋滞したようなので、結果的には学校内に留まったのが良かったと思う・こういう時、どう行動すれば良いかの指示は、たいへん難しいと思う
- ・想定外の事が起こり大変な状況だったが、皆で協力して乗り越えたと思います
- ・常に連絡できる状態にしておく・悪い事が起きた後は良い事がいずれ起こる
- ・センターに非常用食糧を備蓄しておく・情報機器(ラジオ・TV・衛星携帯)を備えておく
- ・もしあの時、あのまま外にいたら、間違いなく死んでいたでしょう・震災時、職員の英断により命を救われました。心より感謝申し上げます
- ・施設関係者は外部との連絡は取っていたのか？また、その状況を受講生に伝えて欲しかった。・ラジオからはソニー仙台の情報ばかり、ポリテクの事はラジオではほとんど無し。・退職間近のさいとう先生は最後まで私たちを励ましてくれました。本当に感謝しています。若い加藤先生は脱出路を確保してくれました。本当に感謝しています。また皆に会いたいです。楽しい三ヶ月でした
- ・多賀城のような海沿いに施設があるのであれば、津波に備えて食料品や飲料水・簡易トイレ・毛布等の備蓄があつた方が良くと思う。・当日、翌日は施設内の先生方の指示に従ってよかつたと思っている。先生方にとつても前例がない中で大変だつたと思うが、生徒のことを考えた上で指導してくれていたことに感謝している
- ・実習場の1Fに発電機や毛布等があり、津波でまったく持ち出すことができませんでした
- ・数日しか通ってないのに無駄に車を潰された感じ・亡くなった方もいるので被害者面したくないけど無意味に感じた・その後きた訓練の案内は、私がやりたいのと全つたく関係のない案内で単なる事務作業に感じ腹立たしく感じた
- ・地震に強い施設作り・食料・水のストック
- ・最後にくりかえしになりますが、職員の建物への退避の適切な指示がもしなかつたなら、私は今こうしてここにいないと思います。今回の震災では、「まさか、あるわけない」という気持ちは捨て、最悪の状況にいかにつ備えることが大切か身を持って知りました・追伸：就職の想談にいっしょうけんめい力をかしていただいた山田さん、吉田先生によるしくお伝えください
- ・震災当日は、適切な指示で無事でいられたので助かつた。また、当時の科のクラス担任から励ましのハガキがあり、とつてもうれしかつた
- ・今回の震災では建物2Fに避難して難を逃れたが、あれ以上の津波が来たら、2Fでは助からないと思ひ、当日夜は恐怖で一杯だつた。隣のソニーのビルか、内陸へ避難を考えても良かつたのではないかとつ思う。しかし、結果として無事だつたのでセンター職員方々の適切な指示と落ち着いた対応に感謝したい
- ・その節はありがとうございました。防災時の連絡先など、防災グッズなど、あらかじめの避難計画掲示などであると良いかもしれません。車の人はどうするか、ラジオ、毛布、水、電灯、ビニール、カンパン。車で帰つた人は無事だつた…。帰つてもよかつたのでは？とつ思うこともありますが、訓練校としては帰宅許可を出せないのはわかるのでしょうかがないです
- ・本当にお世話になりました。生活が落ち着き、時間的に可能になればまたCAD オペのパートなどを目指そうと思ひます。医療費免除がはずれたことは今でも腹立たしく思ひます。健保ごとに免除なるかどうか厚生省で決めるのは変ではないかと思ひます。被災し、物がなくなりお金がかかるのはどこの健保に入つても同じです

- ・訓練修了までを楽しみに受講しておりました。ありがとうございました・多賀城のセンターは今後どのようになるのですか。一日でも早く復旧されまして、またすばらしいセンターにしてください
- ・再就職できたのは、訓練校のおかげと感謝してます。今後も離職者の力にあってあげてください
- ・震災後、担任の職員の方から忙しい中、その後の状況等について、連絡を頂き、ありがたかったです
- ・センター及びハローワークの方々に感謝しております
- ・廣田先生、大変お世話になりました。またお会いしたいのですが平日休みが取れず、お会いすることが困難です。ですがまたいつかお会いしましょう
- ・今の状況、就職難の状況を変えてもらいたい。派遣で働いていても、この先20～30年と働いても変化は無い。今のこの時代、20代でも派遣でくる社会、自分の世代とは違う。これを履すような状況を作らなければ景気が上むくことは、ない。国の政策により、派遣会社が出没し、今や派遣なしでは会社自体も体力がなく、成り立たない。日本国民は日本の政治家の学で踊らされているにすぎない。派遣自体がなくなると景気なんて上向きにはならない。派遣社員にも家族がいて子供もいるし、時間もたてば先立つものも必要になる。お先真っ暗だ。上に立つ人間が国民の目線に下がって考えてほしい。それがなければ日本の未来はない。選挙のこしょか頭にないようだが、国民のなかには非国民と呼ばれようが選挙場に1回も行ったことがない国民もいるということを忘れないでほしい。どうすれば国民が政治に対し興味を持つのか、今まで国ノトップが変わり、どうなった？ 選挙してどうなった？ オレオレサギと同じレベルじゃないか。他国に対して情け無いではないか！ ついつい熱くなってしまうすみませんでした。ありがとうございました
- ・3.11でのあの時の判断「正しい選択」は存在しない。生きて帰る事ができたのは、結果論。あの場所では仕方ない。津波は仕方ないのだが、火災は予想外。ポリテク以外の建物に移動することも見方次第では危険(幹線道を200人も渡れないだろう)。訓練でのクラスメイト23人中連絡先を好感出来たのは3人のみ。あの時、状況が把握できずまだどこかで訓練再開するだろう、このメンバーでまた会えるだろうと思っていた。今でも、3人とは連絡を取りあっている。仕事面等情報交換していく予定(ライバル会社でなければ……)
- ・熊谷先生のカリキュラムを受けられなかったのが残念だった。とりあえず今を頑張っています！
- ・しばらく無職の状況で経済的に不安定な期間が長引いて、ヨユウは一斉無いのですが、仙台市の取立てがシツヨウで、ビクビクした日々を過しています
- ・車の損失に対する保証なり、ローンの問題等、関係機関にうたえてほしい・中高年に対する就業の取り組み、制度の拡充をはかって欲しい
- ・震災後しばらくは、就職することはとても難しい状況で、金銭面でとても不安を感じましたので、雇用保険の支給を継続してもらえたこと、他の施設への入所を可能にしてくれた国の対応には感謝しています。ただ、このようなことをしてくれるということを、問い合わせないと知ることができない状況だったので、決まった時点での情報を早く公開していただけると良かったと思いました
- ・①CADの教科書を購入したが、使用できず終わった。ソフトが無ければ意味がないと言われたので、購入した費用を返金してほしい。②震災当日のことはあまり思い出したくないのが本音です
- ・こういった調査は、記憶が定かなうちに、つまりできるだけ早く行うべきではないですか？
- ・書いている内に書きたいことが増えて、正直、書きづらかった・質問を当日の状況やその後の様子といった感じで大きく分けてくれた方が書きやすいと思いました
- ・溶接の実習を後日する約束をまだ果たしてもらっていません。約束は守ってください。解答をまっています

「特になし」の趣旨の回答が2人

付 11 (現訓練生) 大震災の体験に関連して伝えておいた方がよいこと

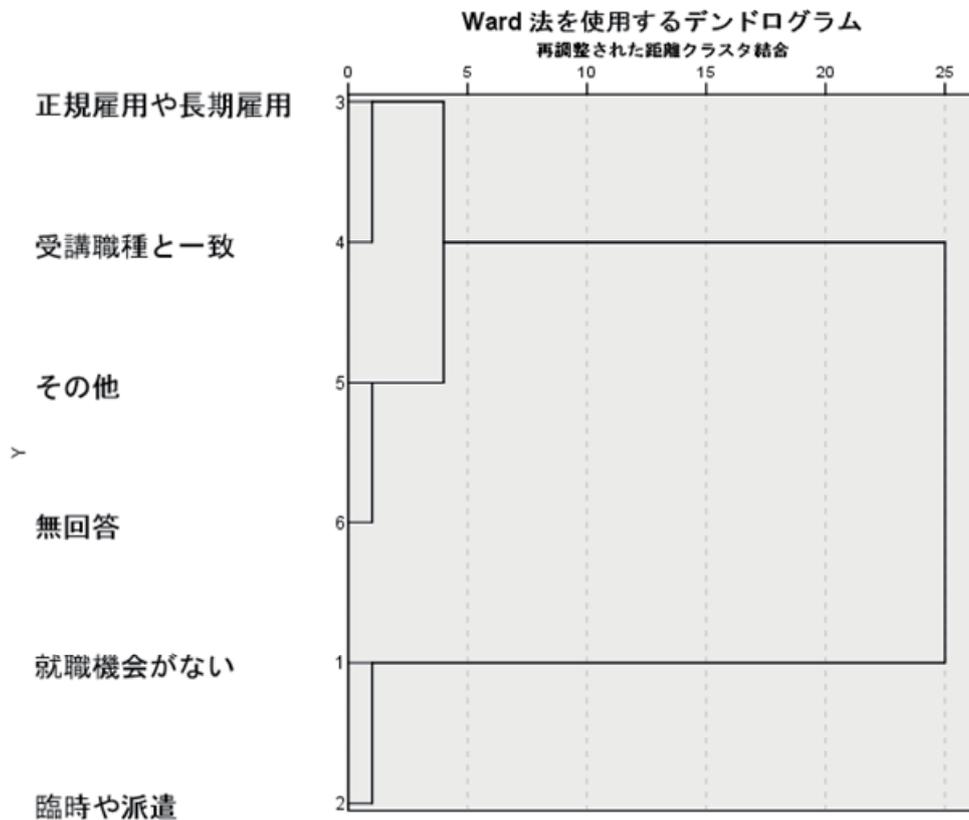
- ・震災後から岩手県、大槌町、釜石、気仙沼等に震災物資を運んだがトラックの軽油の手配が付かなく、10t車で100ℓまでと制限をかけた。おかげでドライバーは渋滞に巻き込まれながらヒヤヒヤして走った。このような時、優先的に軽油を回せないだろうかと思った。うちの会社ではそんな状況の中、石巻で復旧の作業に当たっていた土建屋に毎日100ℓの軽油を供給していた
- ・300人くらい働いていたので、亡くなった同僚もいた
- ・震災や原発で働けなくなった人で保証を受ける場合でもボランティア参加などを給付の条件にすべきでは？長期に及ぶと働く意欲がなくなってしまう。被災地にこそ職業訓練を！
- ・まだ復興が進んでいない地域もあるようですので、女性でも役に立てるような求人をたくさん出してほしいです。私の働いていた会社は300人以上いたため、亡くなった方もいたし、家が流された人も多数いた
- ・支援、フォローの充実やそれに関するシステムの周知の徹底、平等化をお願いしたい。それについても含めて自分にもできることを教えてほしい
- ・今回多くの避難所をまわらせていただいて思ったのは食料等の備えが大きく差がでていたということでした。避難所によっては一日カマポコー一枚とかレトルトごはん1ヶ月で3日分という不十分すぎる場所があったり、毎日二食しっかり出ている所があったりと差が出ていました。こういった所のルールを作った方が良いのではないかと思いました
- ・復興支援住宅の数があまりにも少なすぎる
- ・お金より先に、人の役に立つ事の喜びを実感することを若者に期待します。また、それを支援・応援する人。働く人を大切にすることを見た大人の判断が、政治家、官僚、経営者に必要な気がします(働く道筋、復興の道筋が見えてこない、伝わらない！利害調整ばかりの話になっている)
- ・これだけ災害が多いと、5年～10年スパンで活動する長期災害支援組織(専門)創設、(PLAN(計画)、DO(実行)、SEE(結果調査分析)をほしい
- ・家の場合、半壊以上の被害にならなければ、支援が受けられないということが残念です
- ・主人も今年ポリテク(たてこし)にお世話になりましたが、決まった就職先で人権を侵害することを何度も言われ、トライアル終了で辞めることになりました。震災後、八つ当たりする人が特に増えた気がします。阪神大震災の時に明らかに人々の感じ方が異なる気がします。うまく言えませんが
- ・国や地方自治体は、特に想定外の事も想定して有事に備えて欲しいと思った(動きや判断が遅い為)。個人レベルでもきちんと災害に備えておかなければいけないと改めて感じた(頼りは人の力しかないと感じたため)。大きい災害なのに社会活動を続ける事は(専門職以外)良い事なのか、悪い事なのか考えさせられた
- ・当日の事は、パニックになっていてあまり覚えておりません
- ・職業訓練期間中に1回位は避難訓練を行った方が良いのでは？ガソリンスタンド業は非常時でも対応出来るように何か考えるべき
- ・担当する先生によって、教え方や進め方に違いがあり、先生によっては、半分も理解できないこともあります。もっと訓練生側の個々のレベル差や、習熟度を考えた授業をしてもらえないと、私のようなモノ覚えの悪い人間は相当厳しいです
- ・財務、原価の授業が難しいです。ボードの字が見えにくいので(下や細かい文字)机上PC(中央)に映ると、とても嬉しいです
- ・就職を急ぐべき面もあるが、今後のために年齢も考えるとマクロ・VBA・アクセスも習得すべき(求人が求めている能力)と考えられ最後まで学習したい。覚えは悪いが導入部分も教わっていれば独学で深めていくことには自信があります
- ・実習において、訓練生の人数に対して機械の台数が少なく、一人が操作できる時間が少ないことがあるので、班に分けるのはやむを得ないとしても、一人が機械を操作する時間を増やして欲しいと思います
- ・訓練校にもっと就職に役に立つ科目があればいいと思います
- ・再就職が目的ではあるが、訓練をしても国家資格がなければ雇う方も採用を考えるのでは？資格取得も考えてほしい
- ・もっと早くこういった事はすればよかったのでは？遅すぎるでしょ？

- ・思い出したくない人もいないんじゃないですか
- ・震災が起こった事によって職を失った人達の為の支援体制がますます良くなればと思います
- ・1人ているのがこわいです。子供が帰ってくるのを待ちます
- ・どうにもならない
- ・どんなときでも状況がよくなる事は期待していません
- ・震災で仕事を辞めて、自傷行為が無くなったので、震災に助けられたのが本音
- ・生きていただけだまじだっと思ってます
- ・住宅ローンの返済がまだだいぶ残っているので、経済的な不安は正直あります
- ・正直シンドイ
- ・震災の発生する数ヶ月前に、災害が発生しても困らないように、飲料水、その他の物を準備していました。ライフラインに影響が発生した地震を何度か経験していた事と、ある程度の準備があり、震災直後をのりきる事ができました
- ・今後の何かの形で、お世話になる事もあるかも知れないので、その時はまたよろしくお願いします
- ・私はおとし、生産マネジメント科4期生として以前も職業訓練を受講した事があります。多賀城のポリテクセンターが被害にあわれて、とても残念です。地震発生の際は、SNS やメールなどをつうじて5期生とも連絡をとって、4,5期生や先生達の全員の無事を知り、とても安心しました。名取実習場も夏場、大変暑いとお聞きしました。熱中症にはくれぐれも注意されてみなさん頑張って下さい
- ・金型関係(モールドベース)の仕事はちょっと厳しいです
- ・可能でしたら調査結果の報告書や冊子を頂きたいです
- ・アンケートとの遅い
- ・アンケート、ご協力しました

「特になし」の趣旨の回答が26人

付 12 (訓練生) 求職活動の結果についてのデンドログラム

使用した変数=a.震災による両職種への影響、b.就職の現状への納得度



クラスタ凝集経過工程

段階	結合されたクラスタ		係数	クラスタ初出の段階		次の段階
	クラスタ 1	クラスタ 2		クラスタ 1	クラスタ 2	
1	3	4	2.000	0	0	4
2	1	2	4.000	0	0	5
3	5	6	6.500	0	0	4
4	3	5	19.750	1	3	5
5	1	3	96.833	2	4	0

労働政策研究報告書 No.162

東日本大震災と職業訓練の現場

— ポリテクセンター宮城の被災から復旧・復興までの記録 —

(JILPT東日本大震災記録プロジェクト取りまとめNo.7)

発行年月日 2014年 3月 14日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

©2014 JILPT

Printed in Japan

* 労働政策研究報告書全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)